

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	[REDACTED]	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	きむ みよんす 金 明秀	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-170715-0	1	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：SSM調査などの大規模調査の調査票を参考にし、自らが職業やライフコースに関する面接調査をおこなった。分析については、サンプルサイズの問題から、実際におこなった面接調査のデータではなく、SSM調査データ、およびPISA調査のデータ分析をおこなった。2次分析では、単純集計から、ロジスティック回帰分析までを習得し、報告書では、自らが分析計画を立てて、計量分析の研究の方法を学びながら、因果関係を明らかにする分析を学んだ。授業は1名のみであるため、2次分析を中心に実習をおこなった。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

## 1. 調査のテーマ/領域：職業とライフコースに関する調査

2. 調査の内容/概要：まず格差をテーマにして、職業、学歴、格差意識、政策評価など、格差の現状と格差に対する意識、さらには評価について明らかにする。その上で、人々にとって現代の階層社会システムがどのように見えているのか、を明らかにする。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：インタビュー調査…親族、同窓生、2次分析…SSM調査、PISA調査

4. 主な調査項目：職歴、学歴、父職、格差意識、社会(政策)評価、家族形態、子どもの有無など。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：調査票調査。2次分析。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：6~8月 質問紙による面接調査、関西学院大学等、1名。2次データについては、SSM調査およびPISA調査のデータを利用した。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：調査自体は、親族におこなったため、調査経験を積み、調査票の課題や可能性を検討するためのものである。分析には適さないため、分析に関しては、SSM調査、PISA調査によっておこなわれている。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：計量分析(記述統計、推測統計、多変量解析)

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：(1) SSMの職歴データから、大企業への転職を促す要因について検討し、学歴、前職の影響を確認した。(2) PISAデータの分析から、大学進学期待(アスピレーション)に男女差、階層差があり、その影響の在り方が時代のよって異なることを確認した。

10. 報告書刊行の予定と概要：3月末に2次分析の分析結果の報告書を作成した。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。